

番号	37		平成28年度公共事業再評価調査		担当課名	街路整備課	
事業名	街路整備事業			事業主体	静岡県		
箇所名	JR東海道本線・JR御殿場線			関係市町村	沼津市		
事業採択年度	平成15年度		計画期間	平成15年度～平成42年度			
用地着手年度	平成18年度		工事着手年度	平成—年度			
再評価理由※	再評価実施(H23)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	～H26年度	H27年度	H28年度見込	計	
	78,700		2,520	180	187	2,887	
事業概要	<p>(1)事業目的 沼津市は、歴史的、地理的に県東地域の拠点都市の役割を担ってきた。しかしながら、駅周辺の中心市街地では、鉄道による南北市街地の分断や慢性的な交通渋滞等の課題を抱えており、拠点性や魅力は低下しつつある。 本事業は、土地区画整理事業等の面的整備と道路整備を一体的に実施することにより、沼津駅周辺地区の南北市街地の一体化や交通の円滑化という積年の課題の解消と、新たな都心空間の創造と賑わいの創出を目的としている。</p> <p>(2)事業内容 沼津駅を含むJR東海道本線及びJR御殿場線を高架化し、13箇所の踏切の除却、幹線道路8路線の立体交差化を行う。 ・施工箇所：沼津市大岡～桃里 ・事業区間：JR東海道本線：約4.1km(高架区間約3.7km) JR御殿場線：約1.8km(高架区間約1.6km) ・移転する鉄道施設：車両基地、貨物ターミナル</p>						
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 沼津駅周辺総合整備事業により、駅周辺では、平成26年7月に東部初のコンベンションセンター「プラサヴェルデ」がオープンし、土地区画整理事業も一部区域が完了するなど、新しい街並みが形成されつつある。しかしながら、交通渋滞、南北市街地の分断等の問題については解消されておらず、本事業を含む沼津駅周辺総合整備事業全体の早期完成が望まれている。</p> <p>(2)事業の投資効果 現時点(H28)の分析結果：B/C=1.24 ・総便益(B) 998.93億円 (移動時間短縮便益920.71億円、走行経費減少便益53.27億円、交通事故減少便益24.96億円) ・総費用(C) 801.94億円 (建設投資額805.84億円、維持管理費1.07億円、用地残存価値-4.97億円) その他の効果 ・踏切事故等に起因する列車遅延の解消 踏切の除却により、踏切事故等に起因する列車の遅延が解消され、定時性の確保に寄与する。 ・冠水等による通行規制の解消 道路改良によりガードの冠水や事故等による通行規制がなくなり、迂回に要する時間損失が解消される。</p> <p>(3)事業の進捗状況 事業費ベース：3.7%(H28末) 工事費ベース：—(H28末) 事業量ベース：—(H28末) 用地面積ベース：85.0%(新貨物ターミナル用地)(H28末)</p>						
事業の必要性	評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない					
【視点2】	<p>平成27年度には新貨物ターミナルの用地を8件取得した。引き続き、平成29年度末までの用地取得完了を目指し、強気に事業を展開している。また、用地取得後は、速やかに工事に着手できるよう、鉄道事業者からも全面的な協力を得て、必要な協議や設計等を進めている。</p>						
今後の事業の進捗の見込み	評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない					
【視点3】	<p>新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性 鉄道事業者との協議や設計の中で、新技術新工法の活用、施工工程の見直しなどによるコスト縮減を検討している。</p>						
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を(継続)見直し後継続・中止)する。</p> <p>(2)理由 本事業は、沼津駅周辺総合整備事業の「核」となる事業であり、交通の円滑化、土地の有効利用、防災性の向上、賑わいの創出が期待できる。また、社会経済的に合理性を有する事から、事業を継続し早期完成を図る。</p>						

# JR東海道本線・JR御殿場線

(「費用便益分析マニュアル」連続立体交差事業編 国土交通省道路局 都市・地域整備局 平成20年11月)

## 総括表

I) 総便益 B	998.93 億円
総便益 = [評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] - [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 総費用 C	801.94 億円
総費用 = [当該計画道路の建設投資額] + [当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	1.24

## I) 総便益の算出

### ①各種費用の初年度(H43)便益

	移動時間費用 (億円/年)	走行経費 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計年間経費 (億円/年)
整備しなかった場合 A	1,078.90	297.91	263.51	1,640.32
整備した場合 B	996.31	293.16	261.38	1,550.85

便益	82.59 時間便益	4.75 走行便益	2.13 事故減少便益	89.47
A-B				

- ・「時間便益」:道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」:走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」:道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価

### ②総便益の算出

供用後50年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	移動時間短縮 便益(億円)	走行経費減少 便益(億円)	交通事故減少 便益(億円)	総便益 (億円)
総便益(H43~H92)	920.71	53.27	24.96	<b>998.93</b> ...B

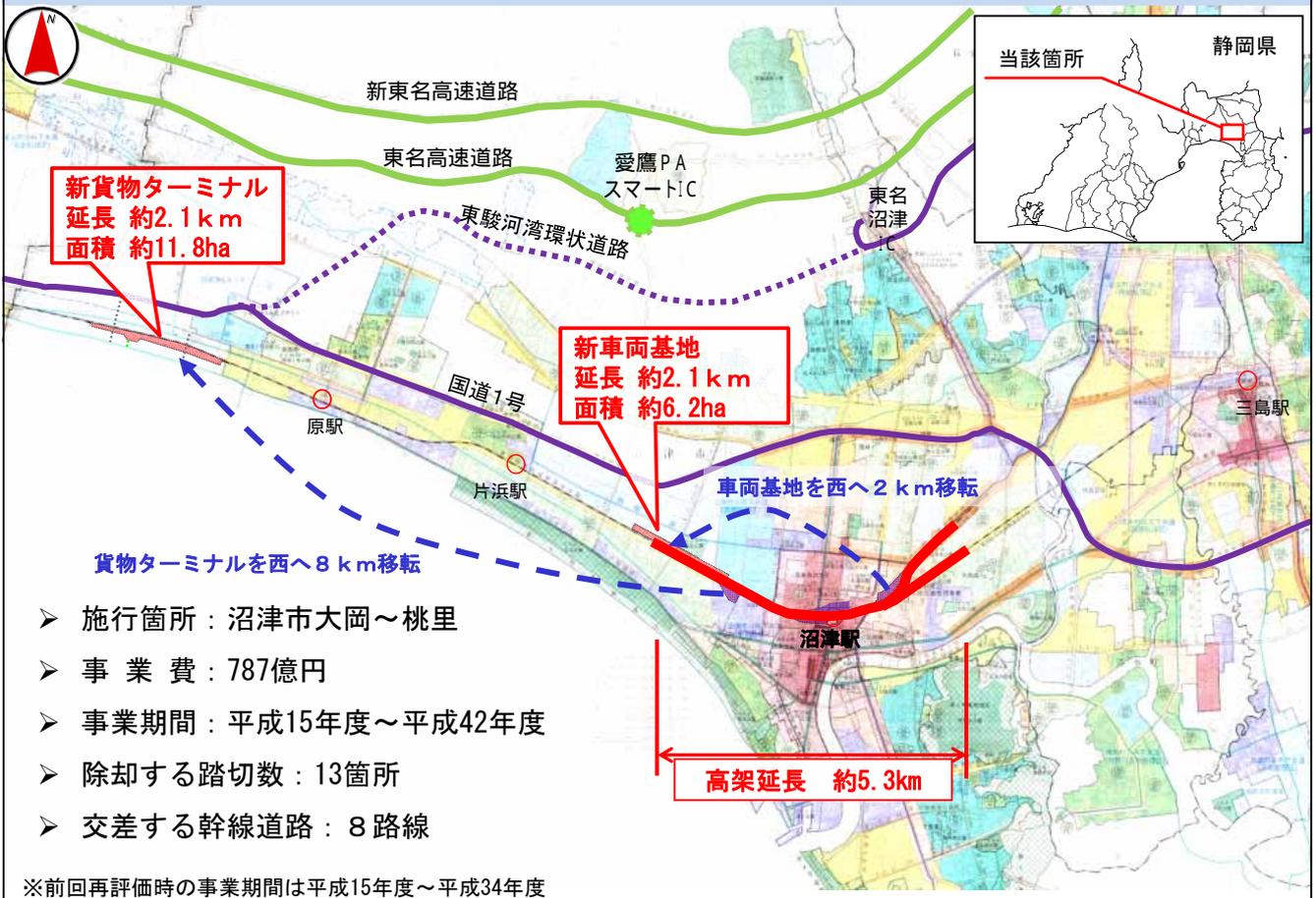
## II) 総費用

[総費用] = [建設投資額] + [維持管理費] - [用地費の残存価値]

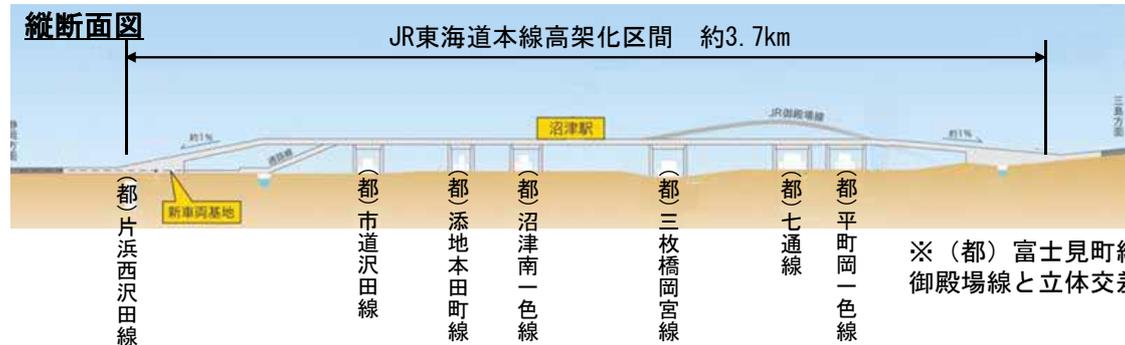
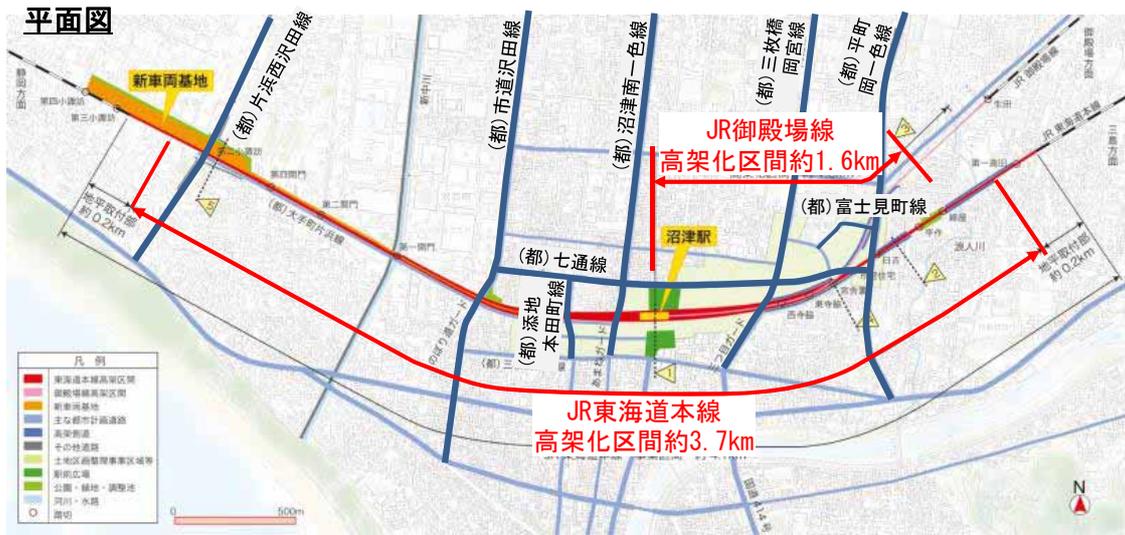
建設費用 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費 用(万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
1006.59	805.84	850	1.07	4.97	<b>801.94</b> ...C

- ・「建設投資額」 :建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年度ごとに割引率をかけ、合計したもの
- ・「維持管理費」 :整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後50年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」:検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。

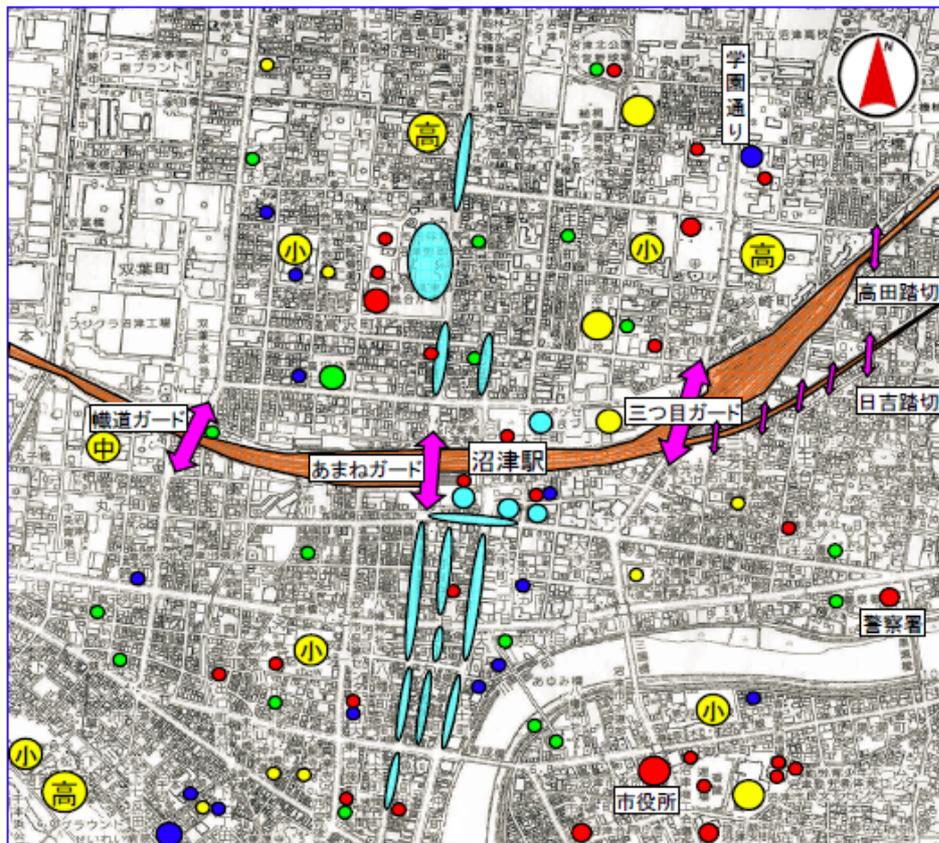
# 事業概要



# 平面図・縦断面図



## 中心市街地の状況①



- 凡例
- 鉄道横断可能箇所
  - 医療・福祉施設
  - 公園・緑地等
  - 公共・公益施設
  - 教育・文化施設
  - ショッピングセンター
  - 商店街

## 中心市街地の状況②

### 交通渋滞



### 高さ制限による事故 (平成27年度には3回)



### 自転車通行不可



### 急カーブによる交通事故



### 冠水 (平成22年度から10回)



# 沼津駅周辺総合整備事業の概要①

## 沼津市中心市街地の現状

- 交通混雑
- 南北市街地分断
- 自転車・歩行者動線不足
- 中心市街地の低迷

## 沼津駅周辺総合整備事業

土地区画整理事業

駅北拠点開発事業

街路整備事業(鉄道高架)

市街地再開発事業

特定再開発事業

関連道路整備事業

交通の円滑化

土地の有効利用

にぎわいの創出

にぎわいと活力のある県東部拠点都市の創出

# 沼津駅周辺総合整備事業の概要②

片浜地区(新車両基地)

静岡東部拠点第二地区  
土地区画整理事業

沼津駅周辺地区



静岡東部拠点第一地区  
土地区画整理事業

駅北拠点開発事業



街路整備事業(鉄道高架)

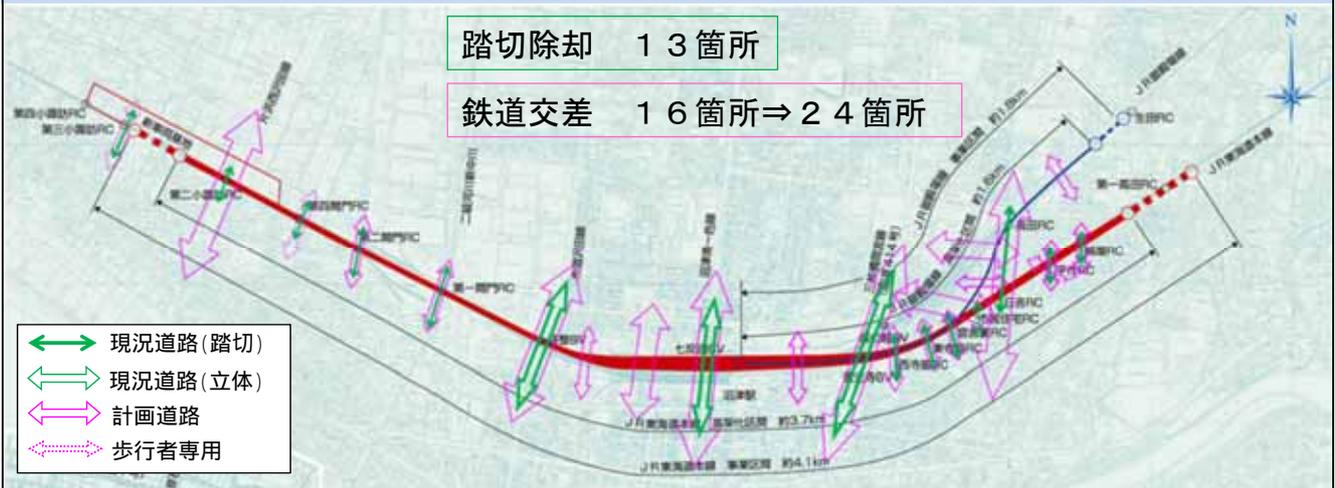
市街地再開発事業

沼津駅南第二地区  
区画整理事業

沼津駅南第一地区  
土地区画整理事業



## 事業効果① 交通の円滑化



## 事業効果② 土地の有効利用



図書館



市役所



住宅・店舗



医療施設

※配置された施設や建物はイメージです

## 事業効果③ 賑わいの創出



高架下



コンコース



駅前広場



高架下

※配置された施設や建物はイメージです

## 事業の投資効果

**費用便益比：B / C = 1.24 (1.50)**

<b>総便益 (B) の現在価値</b>	<b>998.93億円 (1,194.2億円)</b>
移動時間短縮便益	920.71億円 (1,102.5億円)
走行経費減少便益	53.27億円 (62.8億円)
交通事故減少便益	24.96億円 (29.0億円)
<b>総費用 (C) の現在価値</b>	<b>801.94億円 (795.8億円)</b>
建設投資額	805.84億円 (799.9億円)
維持管理費	1.07億円 (1.4億円)
用地残存価値	-4.97億円 (-5.6億円)

- ・ ( ) は H23 再評価結果
- ・ 総便益及び総費用の合計は、表示桁数の関係により計算値と一致しない

## 事業の進捗状況①

- 事業進捗率は約4%（事業費ベース）で用地買収を実施中
- 新車両基地予定地の用地取得率は、約99%
- 新貨物ターミナル予定地の用地取得率は、約76%
- 高架区間の用地取得率は、約96%  
（区画整理事業で取得予定の用地を含む）
- 鉄道事業者とは、用地取得後に速やかに工事着手するための協議や設計を実施中

## 事業の進捗状況②

### H22.9～H23.6 沼津駅付近鉄道高架事業に関する有識者会議



有識者会議の状況①



有識者会議の状況②



有識者会議の状況③



知事へ報告書の手交

## 事業の進捗状況③-1

H23.11~H25.11

沼津高架PIプロジェクト



オープンハウス



車座談義



勉強会（ワークショップ）



知事へ報告書等の手交

## 事業の進捗状況③-2

沼津高架PIプロジェクト勉強会における共通認識

- 何も決まらない状態は最も避けるべき
- 現状のまま放置するのではなく、地域づくりを早急に進めるべき
- 財政へ配慮し、効率的な事業とすべき
- 沼津市とともに今後とも市民参加による地域づくりを進めるべき

## 今後のスケジュール（案）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	~	H42	H43
用地補償	→										供用開始予定
新貨物ターミナル整備		→									
新車両基地整備			→								
高架本体整備					→						

## 対応方針（案）

### 沼津駅周辺総合整備事業の「核」となる事業

- ・ 交通の円滑化
- ・ 土地の有効利用
- ・ 防災性の向上
- ・ 賑わいの創出



**事業を継続し早期完成を図る**